



2-6 LAC 特別講座

12月18日(木)、神戸女学院大学国際学部グローバル・スタディーズ学科から米川正子教授が来校され、2年6組に特別講義をしてくださいました。

米川教授は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）職員として主にアフリカのコンゴ民主共和国とルワンダで勤務されたことがあり、専門は難民、紛争と平和。1時間目は「国際基準を学ぶ重要性について」そして2時間目は「格差について」、ご自身の経験をもとにお話ししてくださいました。



校訓の「捨身」という言葉に感銘を受けました、というお言葉から講義がスタートしました。講義の最後に、『この「捨身」は「利他」という言葉とつながるので、周りの人を大切にしてほしい』と、先生からメッセージをいただきましたね。

1時間目は「国際基準を学ぶ重要性について」、日本・日本人のよいところ、逆に日本・日本人の弱点や問題点を考えました。先生のお話によると、日本・日本人の弱点は、以下の

1. 災害対策
2. 和の重視
3. 女性軽視
4. 多様性理解の軽視
5. 平和ボケ
6. 英語力

だということでした。それぞれについて、キーワードをあげながら詳しく説明していただきました。そして結論は、『日本における常識（とされていること）は、世界では非常識とされている。だから、国際基準をしっかりと学び、世界と比較して見るべきだ』ということでした。

2時間目は「格差について」考えました。世の中には、貧富、男女、人種、宗教などの格差があり、先生は、カンボジアでのボランティアやコンゴ民主共和国での勤務の中で、『出生国ガチャ』（先生の造られた言葉）を身をもって感じた、とおっしゃっていましたね。そして自分の目で見て、耳で聞くことが何より大切だと話してくださいました。

これから世界のさまざまな国を見るチャンスがあるみなさんなので、ぜひ、アフリカの国々にも興味を持ってほしいと思います。